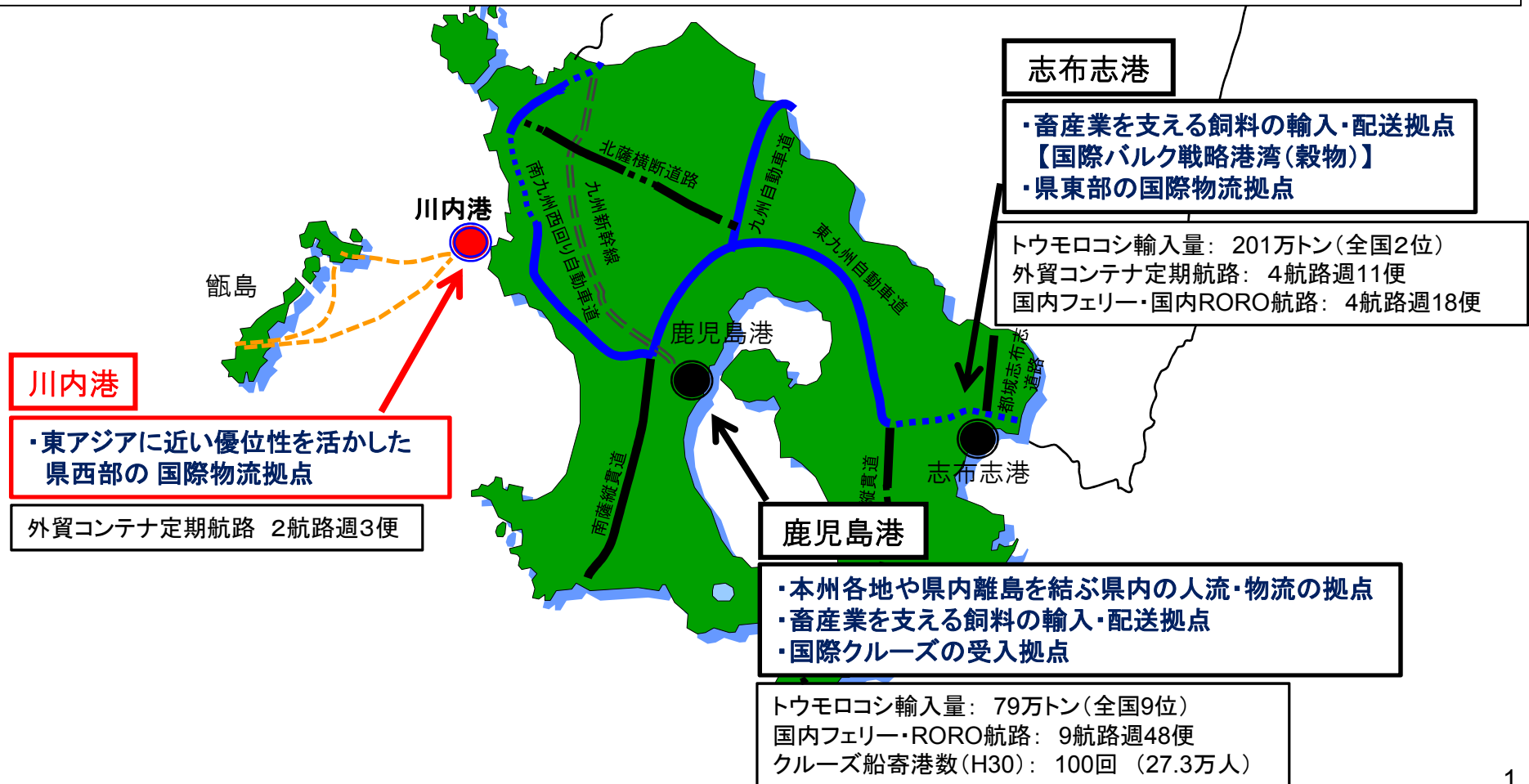


# 川内港 港湾計画改訂

前回改訂:平成元年11月(目標年次:平成12年頃)  
今回改訂:令和元年11月(目標年次:2030年代前半)

令和元年11月19日  
交通政策審議会  
第77回港湾分科会  
資料1-1

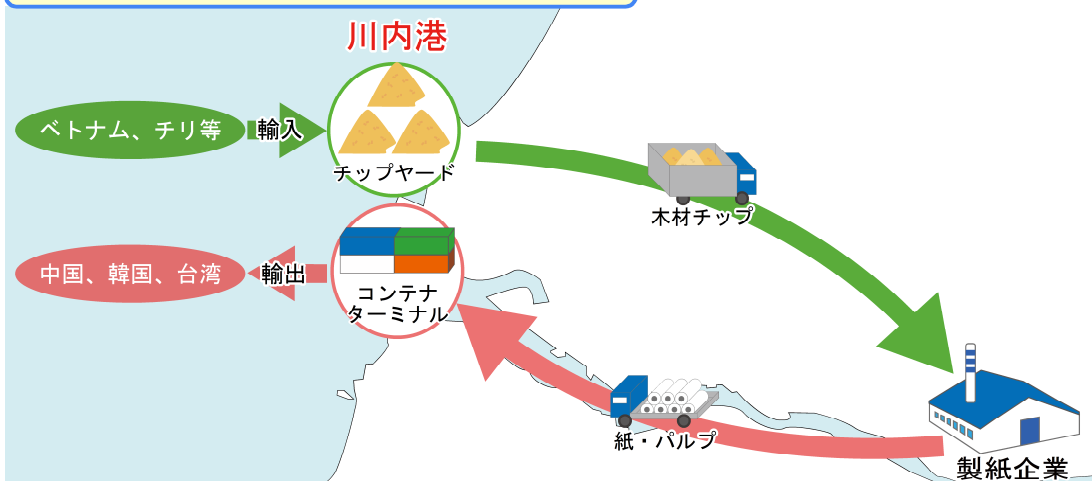
- 川内港の背後圏は、温暖な気候、広大な畑地等を活かし、畜産、園芸を中心とした農業経営が展開されている。豊富な森林資源を有し、素材生産量は鹿児島県内の約3割を占める。
- 甕島の観光資源としての注目度が高まっており、九州新幹線開通と川内港の甕島航路開設に伴い、観光客が急増。
- 南九州西回り自動車道(一部有料区間)鹿児島～川内間が供用開始し、鹿児島方面とのアクセスが向上。川内～阿久根間も新規事業化され、今後は熊本方面とのアクセス性も向上。



# 川内港が担う役割(地域産業の物流拠点)

○パルプ・紙製造業に必要な製紙原料(木材チップ)や畜産業に必要な飼肥料の輸入、紙・パルプの輸出等を行う海上物流の拠点として、背後地域の産業を支える役割を担っている。

## 紙・パルプ(輸出)・木材チップ(輸入)イメージ



## 川内港背後地域の産業

	鹿児島県	川内港背後地域	
		県内シェア	
農業産出額(億円) ※1	4,435	825	19%
木材生産量(千m <sup>3</sup> ) ※2	1,045	176	17%
水産業産出額(億円) ※3	796	103	13%
食料品製造業出荷額等(億円) ※4	7,206	1,349	19%
パルプ・紙・紙加工品製造業出荷額等(億円) ※4	430	259	60%

(出典) ※1:生産農業所得統計(H27) ※2:森林・林業統計(H28)  
 ※3:漁業・養殖業生産統計(H27) ※4:工業統計調査(H27)

## 川内港 京泊埠頭全景



## 川内港の取扱貨物量(左表に関連する主な貨物)

品目	区分	H29(トン)
動植物性製造飼肥料(畜産飼肥料)	輸入	30,445
その他畜産品(牛肉・鶏肉等)	輸出	599
原木(原木)	輸出	9,845
水産品(ブリ等)	輸出	390
水産品(水揚)	移入	208
木材チップ(製紙原料)	輸入	716,635
紙・パルプ(紙製品・パルプ)	輸出	81,221
	移出	65,936
合計		905,279
川内港総貨物量		1,462,349
<b>川内港総貨物量に占める割合</b>		<b>62%</b>

# 川内港が担う役割(緊急物資輸送の拠点)

- 川内港は鹿児島県地域強靱化計画や地域防災計画において、発災時の離島地域への緊急物資輸送の役割を担うこととなっている。(耐震強化岸壁は未計画・未整備)
- 今後、耐震強化岸壁を整備し、災害時における背後地域(薩摩川内市、阿久根市、いちき串木野市)向けの緊急物資の海上輸送拠点としての役割を担う予定。

緊急輸送道路ネットワーク計画図 (鹿児島県)

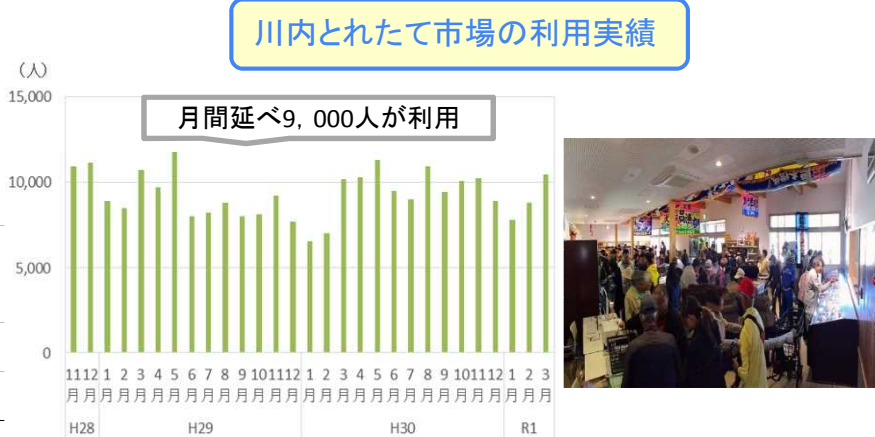
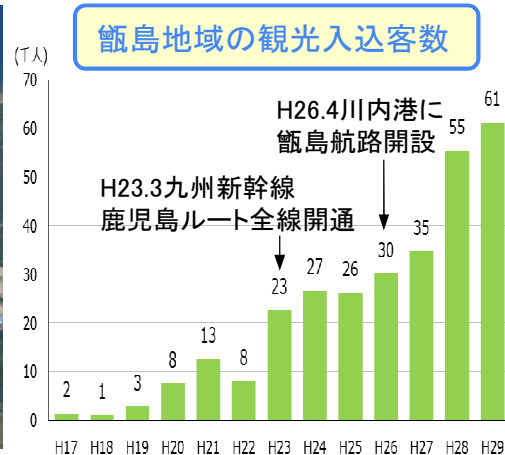


薩摩川内市周辺の緊急輸送道路



# 川内港が担う役割(島民・観光客の交流拠点、にぎわい空間) 国土交通省

- 甑島への高速船が2便/日運航し、島民や観光客の交通の拠点となっている。
- 甑島地域への観光客数が増加傾向にある中、港町地区において、平成28年に直売所・食堂を併設した「川内とれたて市場」がオープンし、月間延べ9,000人以上が来訪している。
- 川内港のにぎわいの創出、国際物流拠点としての川内港の役割の発信、国際交流活動に対する市民理解の促進を図るため、「川内港にぎわい祭り」、「薩摩川内市ポートフェア」等のイベントが定期的に行われている(川内港にぎわい祭りはH26年より年2回、薩摩川内市ポートフェアはH27年より年1回開催)。



## 【将来像】

県北西部地域の産業の競争力強化を支援、  
アジアとともに成長する川内港

基本方針1 <物流・産業> 国際物流拠点として産業を振興する港づくり

○コンテナや林産品等のバルク物流機能の強化を図り、背後地域の国際競争力の強化に貢献。

基本方針2 <安全・安心> 地域の安全・安心を確保する港づくり

○災害時の背後地域・離島地域への緊急物資等の海上輸送拠点としての機能を新たに確保。

基本方針3 <交流・賑わい> 地域の交流・賑わいに資する港づくり

○甕島への玄関口としての魅力ある港湾空間の創出により、交流人口の拡大に貢献。

# 川内港 背後ネットワーク

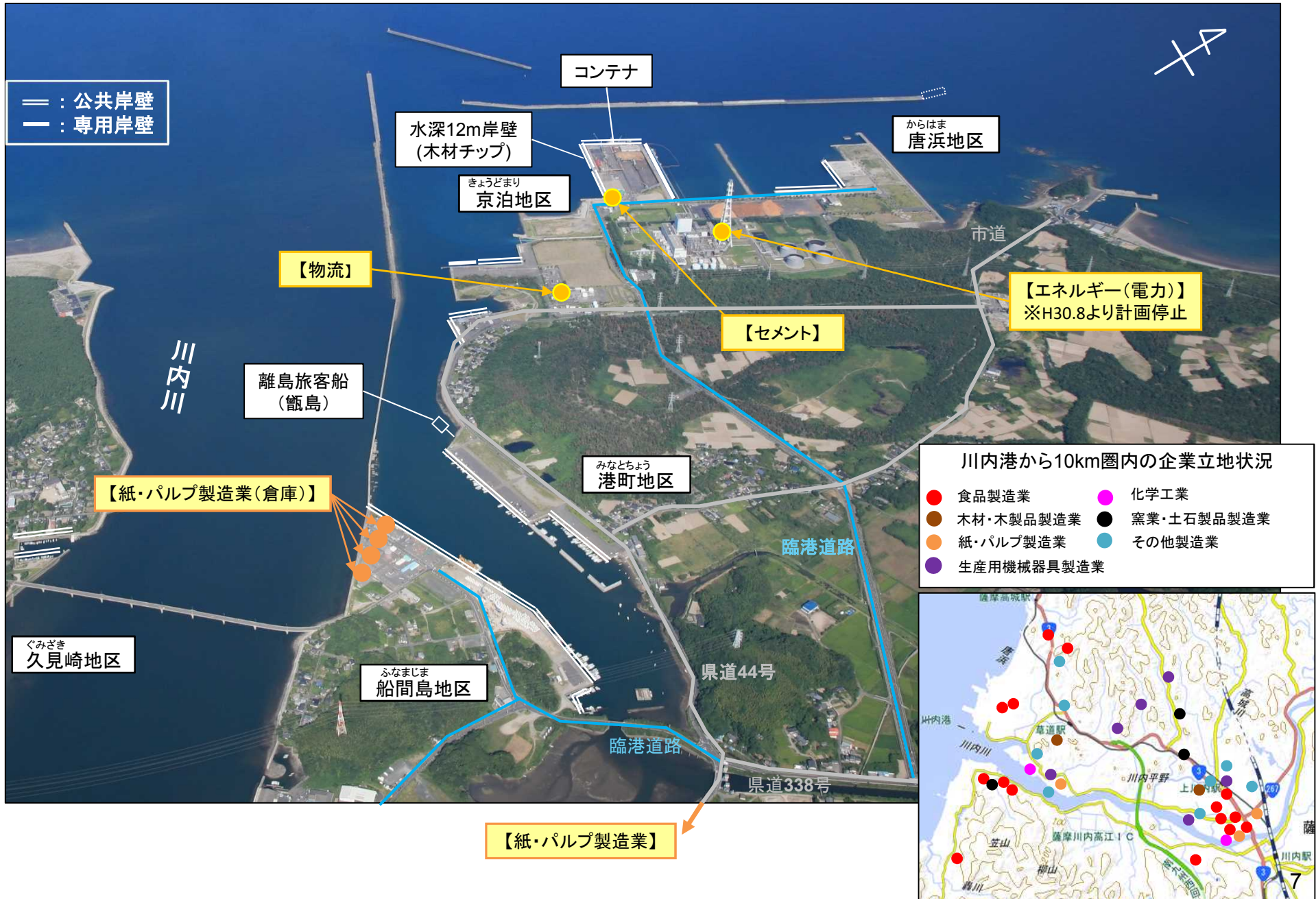


JR九州 川内駅より 車で約30分

南九州西回り自動車道  
薩摩川内水引ICより 車で約10分



# 川内港の企業立地等の状況

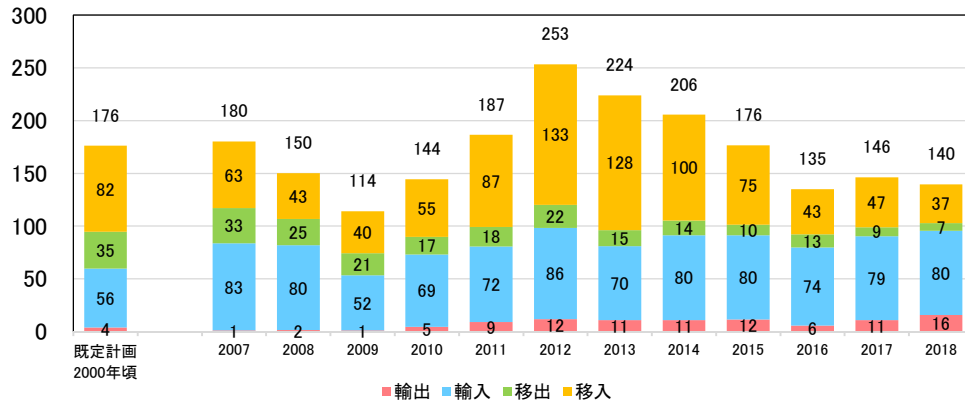


# 貨物取扱状況

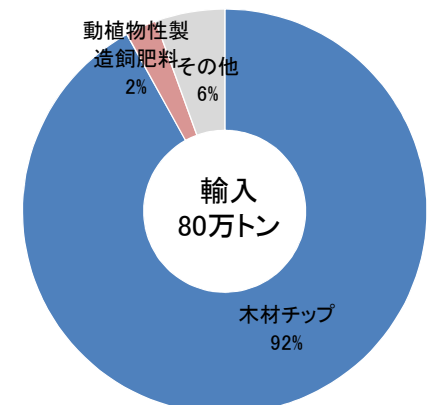
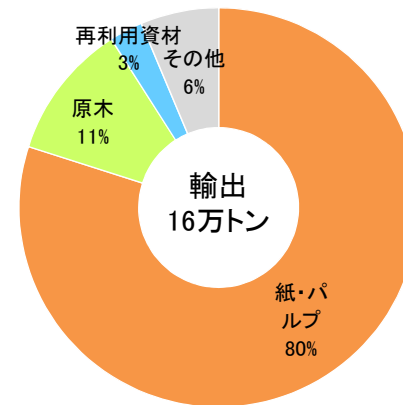
- 大宗貨物は、木材チップの輸入・移入、紙・パルプの輸出・移出、原油及び重油の移入、砂・砂利の移入・移出。
- 木材チップは、背後の製紙工場の原材料及びバイオマス発電の燃料として、ベトナム・マレーシア等から輸入。  
加工した紙・パルプを、中国等に輸出、東京・大阪等に移出、福岡等に陸送。
- 原油及び重油は、港内の火力発電所の燃料として、喜入港等から移入。ただし、平成30年8月より、原発の稼働に伴い計画停止中となっており、今後の稼働は未定。
- 砂・砂利は、背後地域の建設用資材として、串木野新港や鹿児島港から移入。

(万トン)

取扱貨物量の推移



取扱貨物量の内訳(2018年)

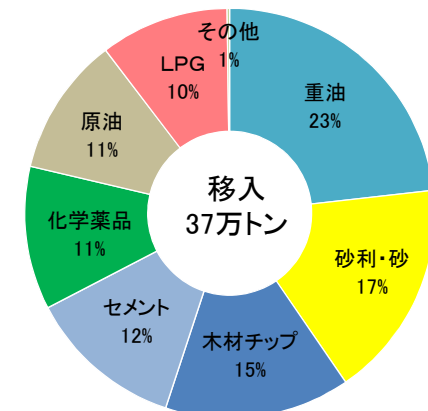
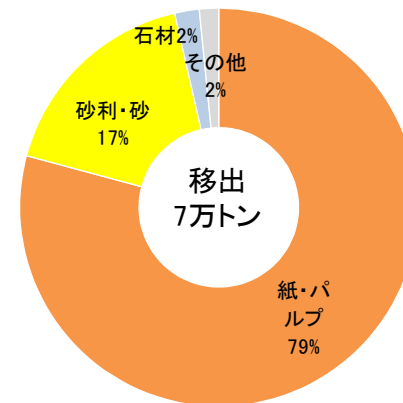


**【既定計画との相違の主な要因】**

- 製紙企業における生産計画、設備投資等による木材チップ輸入の増、移入の減。
- 県内公共事業の縮小により、砂利・砂、セメント等の移出入が見込めなくなったことによる減。

<内訳>

木材チップ： 輸入+22万トン、移入-10万トン  
 セメント： 移入-8万トン  
 砂利・砂： 移出-13万トン、移入-12万トン

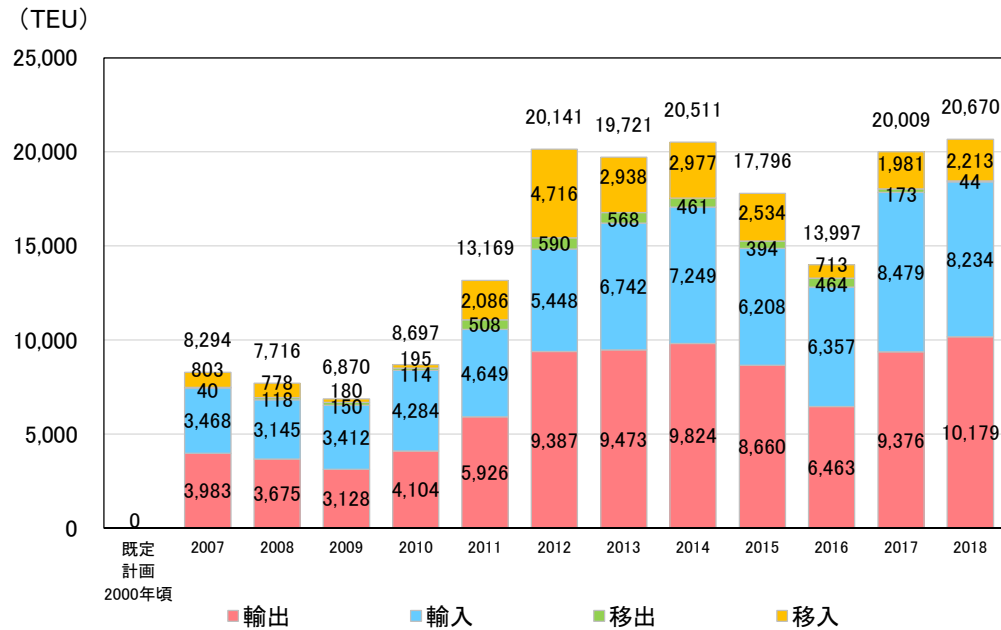




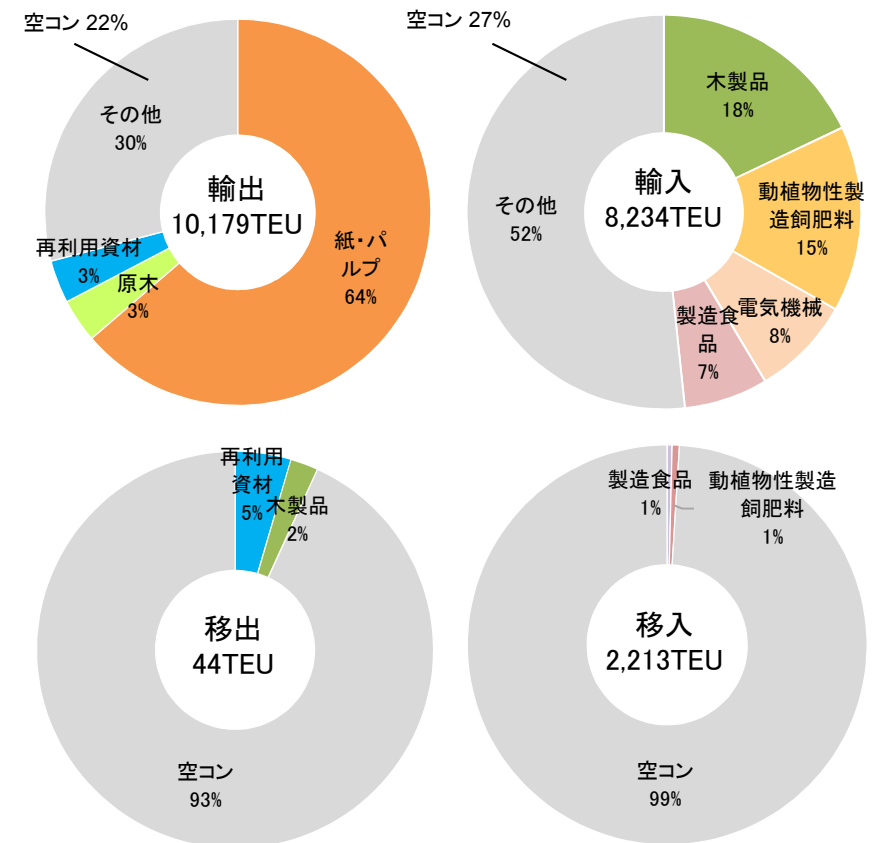
# 貨物取扱状況(コンテナ)

- 大宗貨物は、紙・パルプの輸出、木製品の輸入、動物性製造飼肥料の輸入・移入、原木の輸出。
- 紙・パルプは、背後の製紙工場による主に中国への紙の輸出、台湾への紙及びパルプの輸出。
- 木製品は、主にフィリピンの工場生産した建築材料を輸入。
- 動物性製造飼肥料は、背後地域の畜産業者・飼料会社向けの畜産用飼肥料として、タイ・ベトナム等からの輸入。
- 原木は、背後地域で生産後、主に中国・韓国への輸出。

コンテナ取扱個数の推移

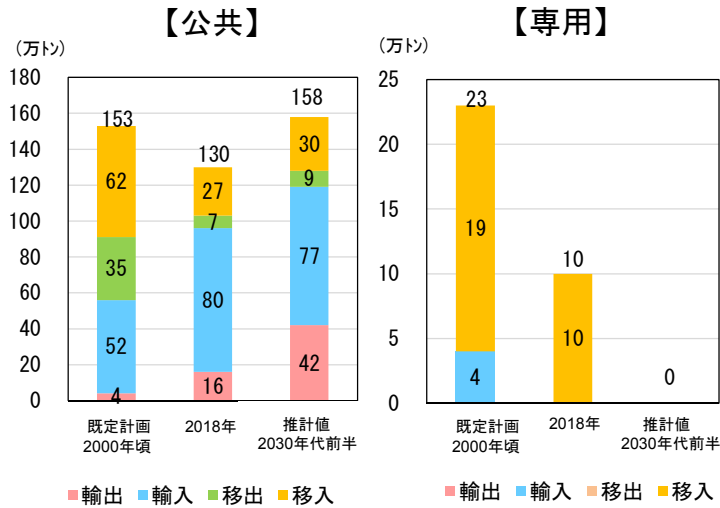


コンテナ取扱個数の内訳(2018年)



コンテナ航路	便数
韓国航路	2便/週
台湾航路	1便/週
国際フィーダー航路(神戸)	不定期

# 計画貨物量の設定



## 【増減の主な要因】

### [公共]

#### 《輸出》

○原木 H30:2万トン ⇒ 今回計画27万トン

・中国等の木材需要の増加を踏まえ、背後地域における素材生産量の増加に伴う原木輸出の取扱増加を見込む。

### [専用]

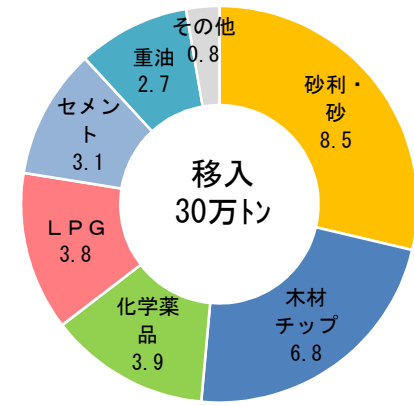
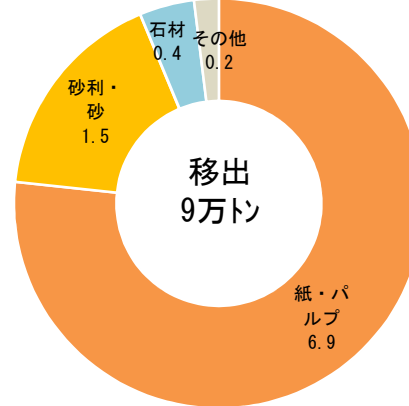
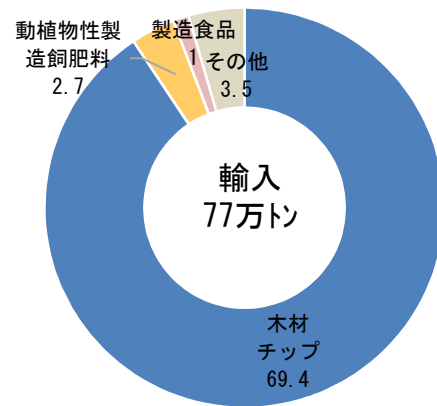
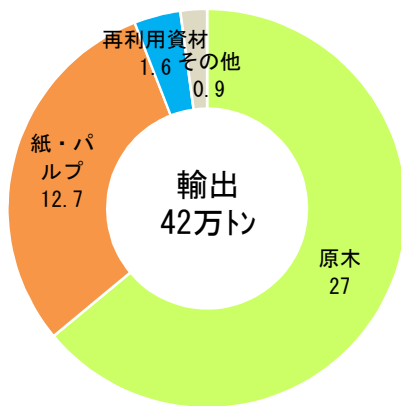
#### 《移入》

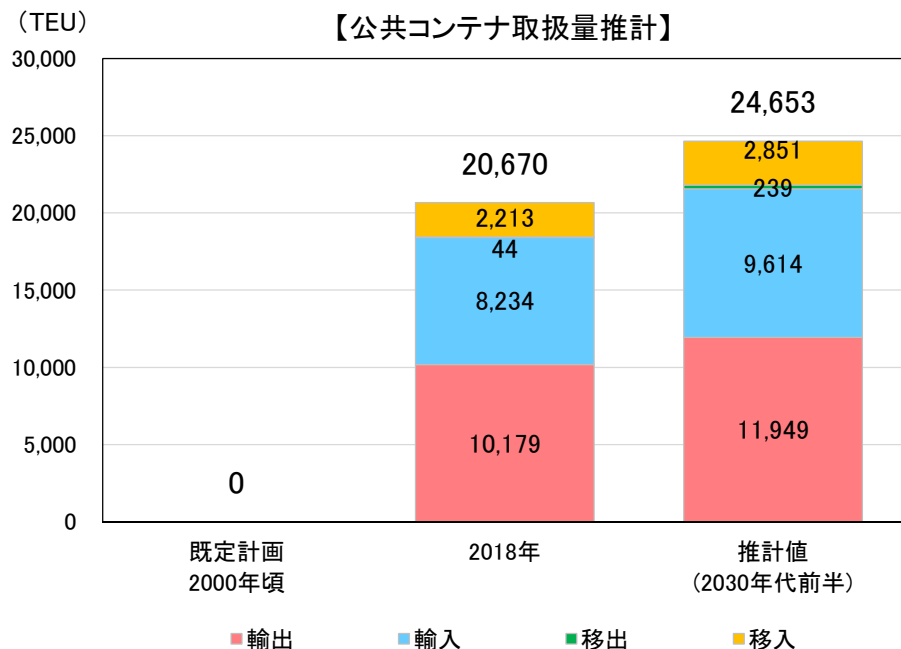
○原油 H30:4万トン ⇒ 今回計画:0トン

○重油 H30:6万トン ⇒ 今回計画:0トン

・火力発電所の計画停止運用(H30年度～)を踏まえ、取扱減少を見込む。

## 今回計画の貨物量内訳



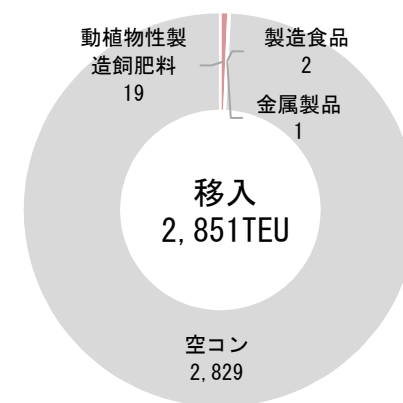
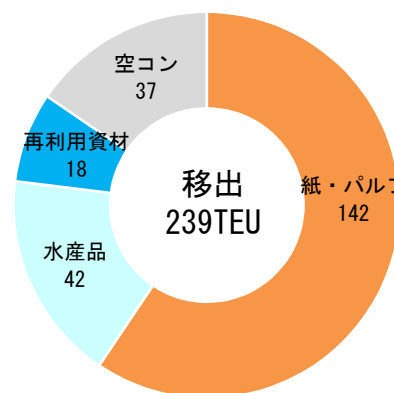
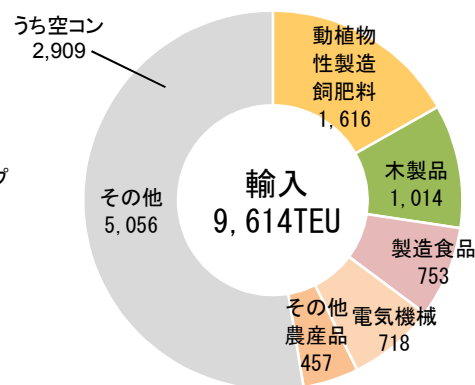
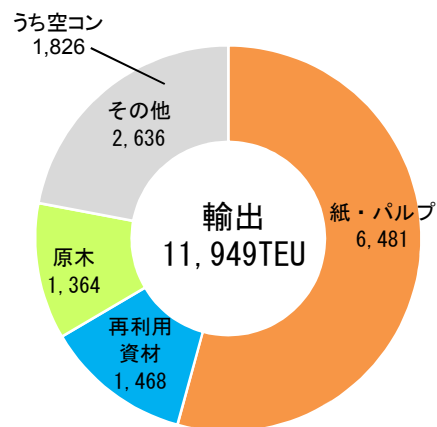


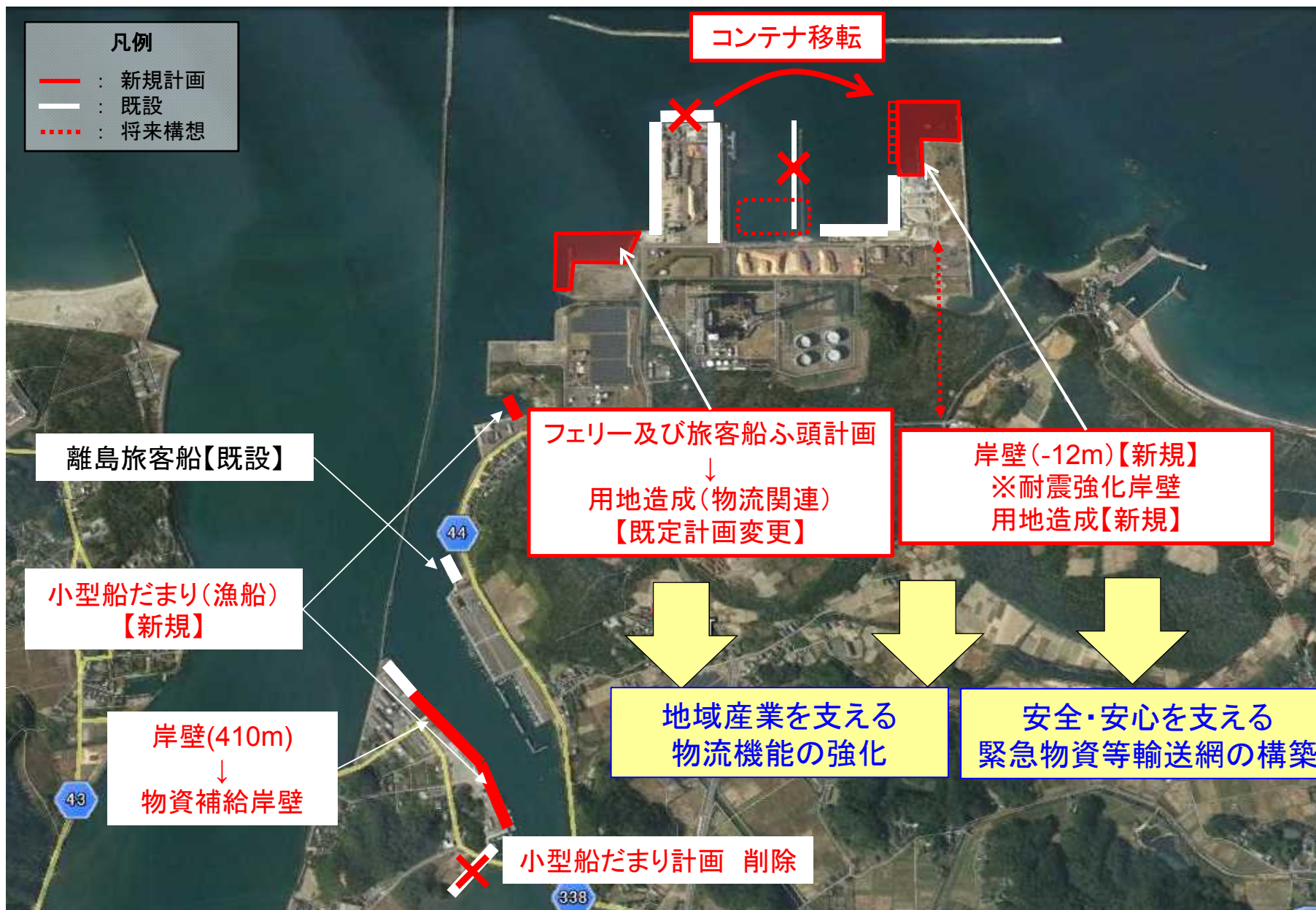
## 【増加の要因】

### 《輸出》

○原木 H30:374TEU ⇒ 今回計画1,364TEU  
 ・中国等の木材需要の増加を踏まえ、背後地域における素材生産量の増加に伴う原木輸出の取扱増加を見込む。

## 今回計画の貨物量内訳





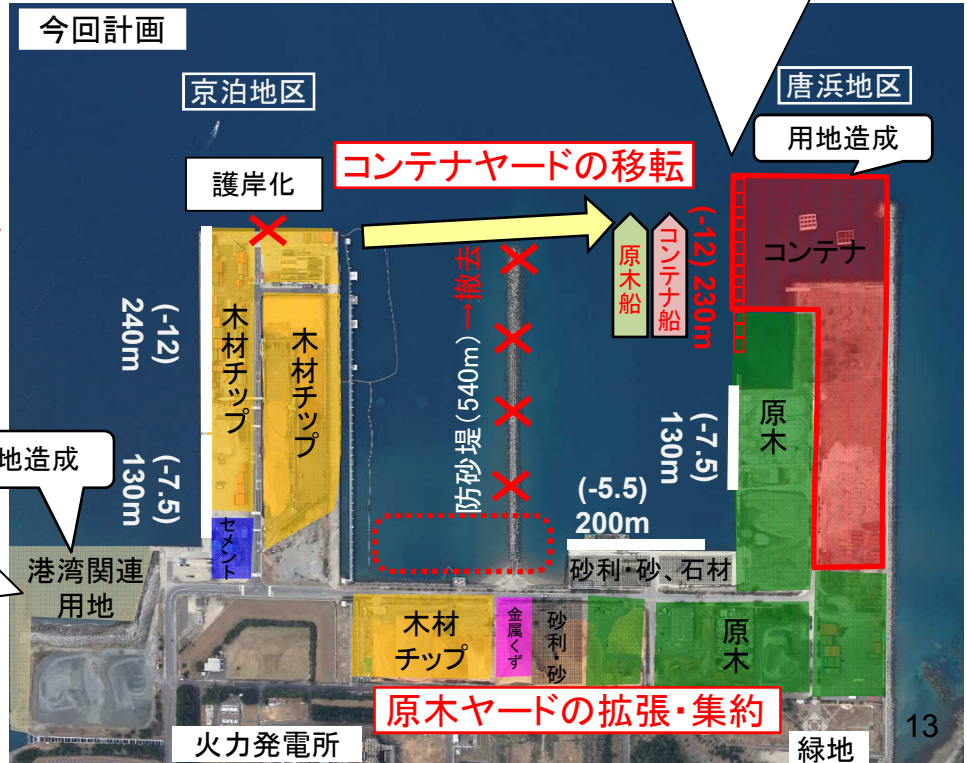
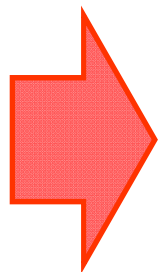
# 主な計画内容(埠頭再編による物流機能の強化)

- 平成26年より原木輸出量が増加(H26:1千トン→H30:18千トン)し、今後も取扱増加のニーズがあるが、原木ヤードとして利用できる用地が不足している状況。
- 京泊地区のコンテナヤード不足により、唐浜地区にコンテナを仮置きしている状況。
- 産業動向の変化、船舶大型化等に対応し、地域産業の競争力強化に資するため、新規埠頭の整備とあわせた埠頭再編を計画する。



産業空間の再配置及び利便性向上のための臨海部用地の政策的な誘導・供給  
 →用地造成  
 ヤード配置再編  
 ⇒横持ち輸送等の軽減

産業動向、船舶の大型化等の輸送形態の変化、荷役に係るニーズ等への対応  
 →水深12m岸壁(新規)  
 ⇒大型船での一括大量輸送による物流効率化  
 横持ち輸送等の軽減



老朽化・陳腐化した物流施設の高度化、農水産品等を輸送する冷蔵・冷凍コンテナ等の取扱いに必要な用地及び電源の確保  
 →港湾関連用地の確保(上屋整備)  
 ⇒地場の農畜産品輸出の促進

# 【参考】原木輸出の促進に向けた取組

- 「国際物流拠点として産業を振興する港づくり」に向けて、国、県、市及び民間企業等で川内港の機能強化に係る検討を行う「川内港地域活性化協議会」を令和元年11月に設置。
- あわせて、地域の木材産業拡大及び川内港の木材輸出拠点化を図り、外貨獲得に向けた新たな取組を検討するため、国、県、市、木材商社及び物流業者を含めた「次世代型林産品輸出システム検討会」を設置。今後、他港との連携による原木輸出の2港積み等について議論していく。

## <大型船での2港積みによる原木輸出のイメージ>

串木野新港→川内港→中国

※将来的には、その他の港との連携も検討し、より広域での原木輸出の効率化を目指す。

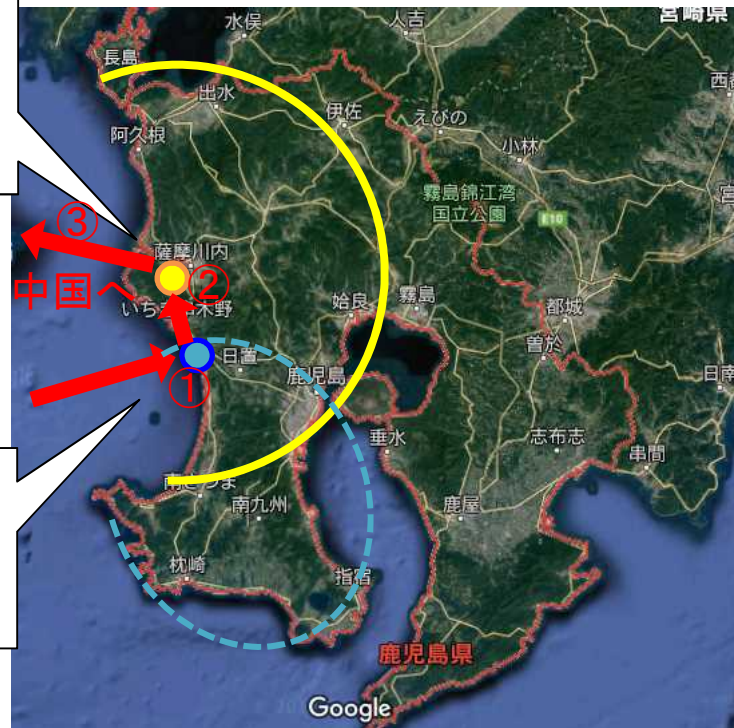
### 【川内港】

新規岸壁(-12m) 230m  
 ※H30輸出量:17,537トン

### 【串木野新港(地方港湾)】

- ・既設岸壁(-10m) 185m
- ・既設岸壁(-7.5m) 260m

※H30輸出量:49,044トン



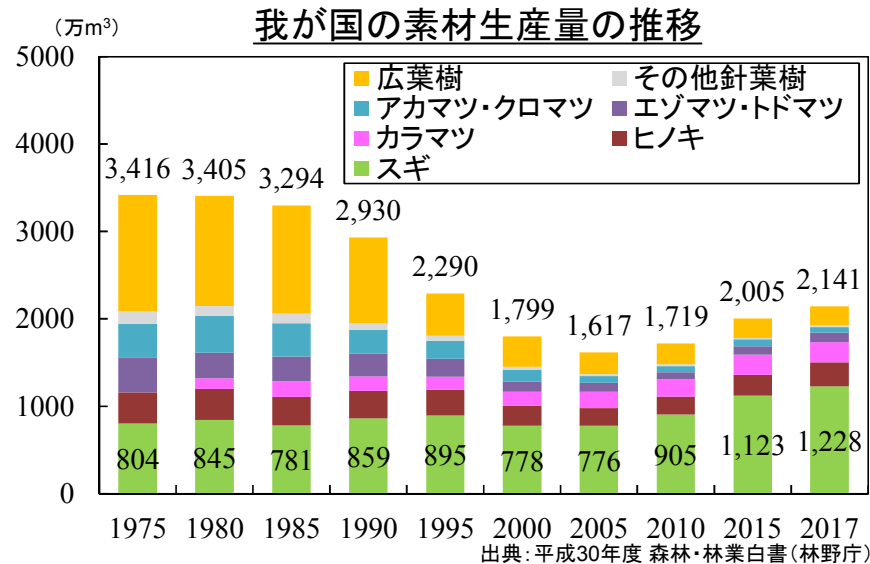
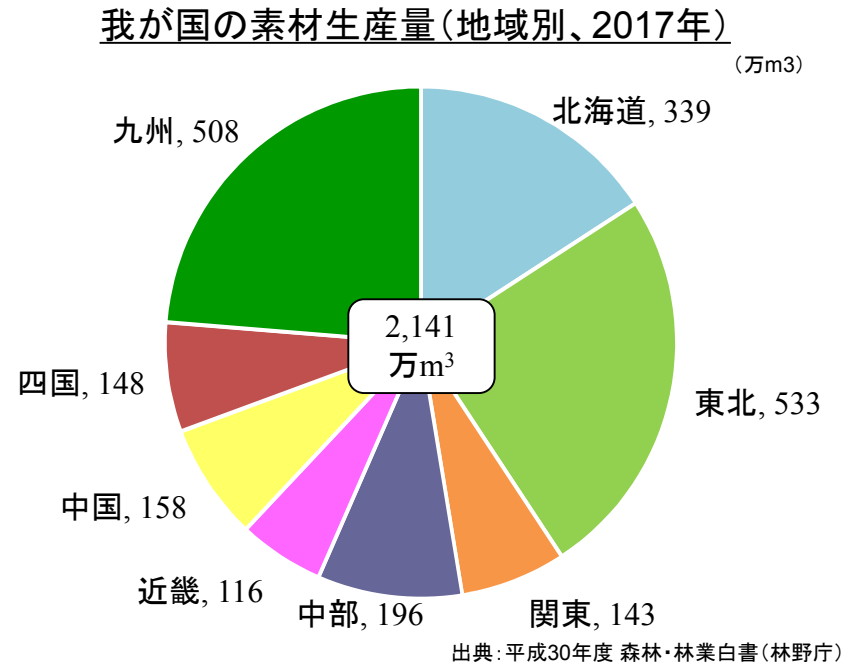
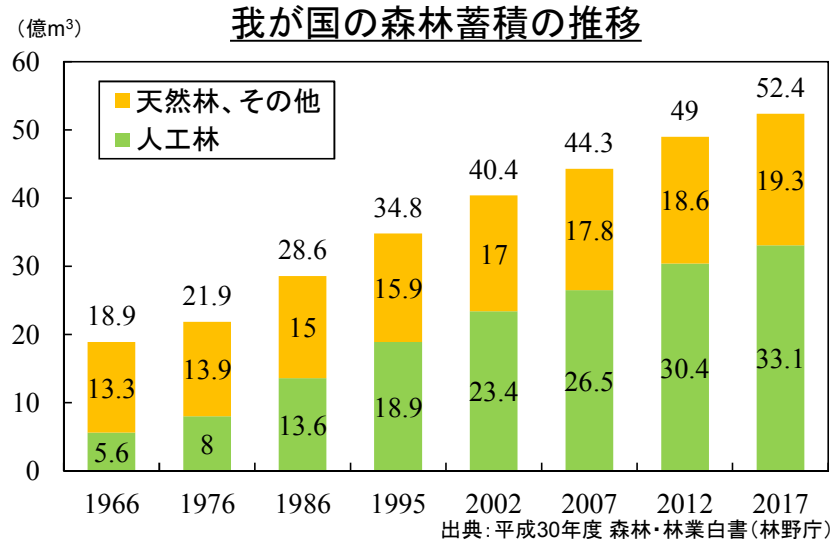
道路網の整備進展により原木集荷の効率化が期待できる  
 ※阿久根方面にも輸出需要あり



# 【参考】我が国の森林の状況

○我が国の森林蓄積は人工林を中心に年々増加してきている。素材生産量は、樹種別ではスギが最も多く(約6割)、地域別では東北、九州、北海道の順に多くなっている。

○2025年の総需要量7,900万m<sup>3</sup>に対し、同年の木材供給量の目標は4,000万m<sup>3</sup>(2014年は2,400万m<sup>3</sup>)となっている。



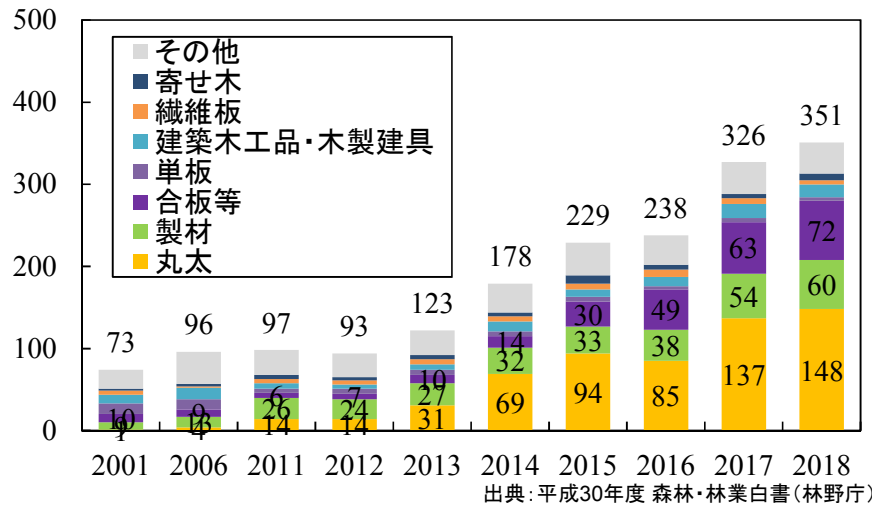
### 総需要量の見通しと木材供給量の目標

	2014 (実績)	2020 (見通し/目標)	2025 (見通し/目標)
総需要量	76 百万m <sup>3</sup>	79 百万m <sup>3</sup>	79 百万m <sup>3</sup>
木材供給量	24 百万m <sup>3</sup>	32 百万m <sup>3</sup>	40 百万m <sup>3</sup>

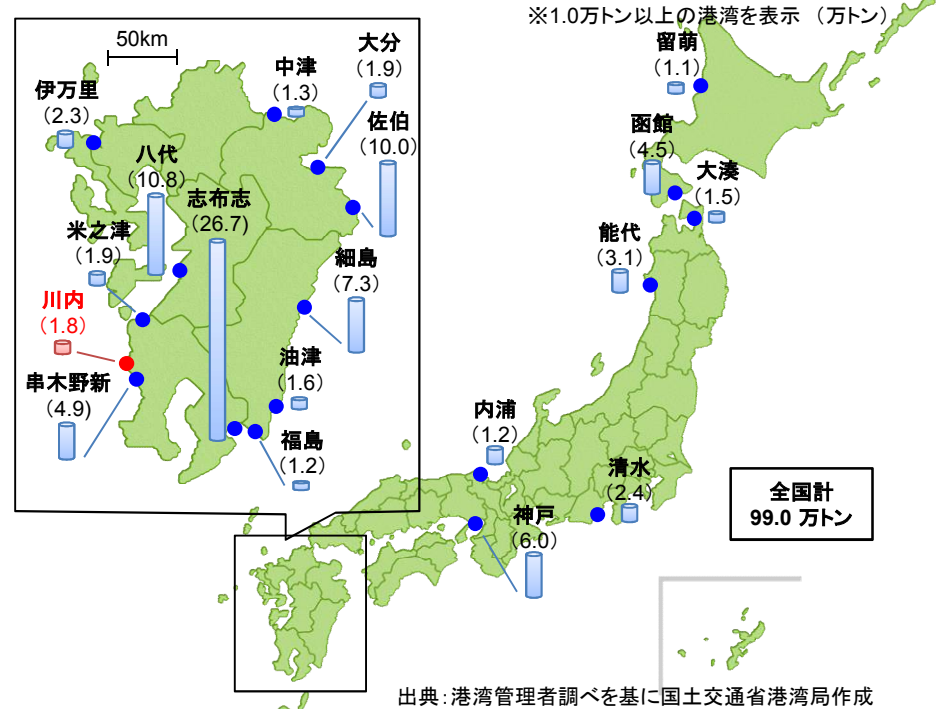
# 【参考】我が国の丸太輸出の動向

○我が国の木材輸出額は、2013年以降増加しており、品目では丸太、輸出先では中国が最も多くなっている。  
 ○港湾別の原木輸出量では、志布志、八代、佐伯、細島の順に多く、上位10港のうち6港を九州の港湾が占めている（川内港は第13位）。

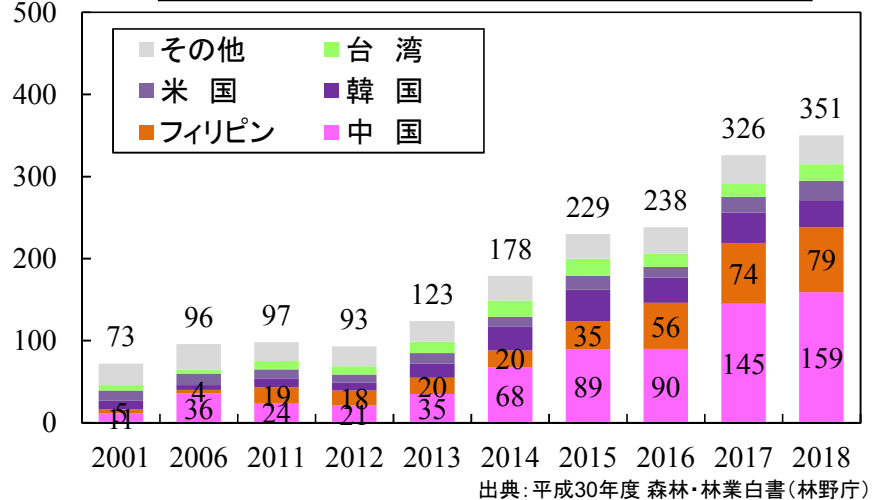
我が国の木材輸出額(品目別)の推移



我が国の原木輸出量(港湾別, 2018年)



我が国の木材輸出額(国・地域別)の推移



丸太の輸出荷姿(左:バルク、右:コンテナ)

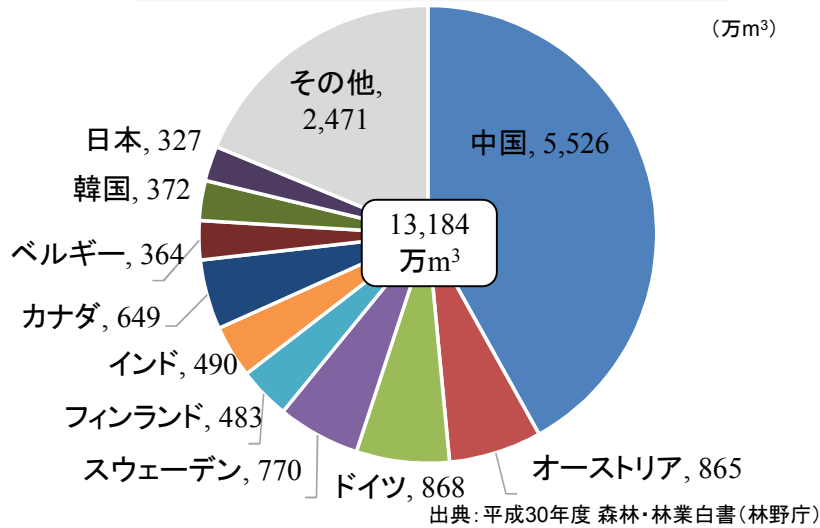




# 【参考】世界の丸太輸出入量と中国の丸太需要

- 世界の丸太輸入量では中国が約4割と最も多く、丸太輸出量ではロシア、ニュージーランド、米国、カナダ、チェコの順に多くなっている。
- 企業ヒアリングによると、中国における丸太の需要は今後も安定的かつ増加傾向で推移するとみられている。

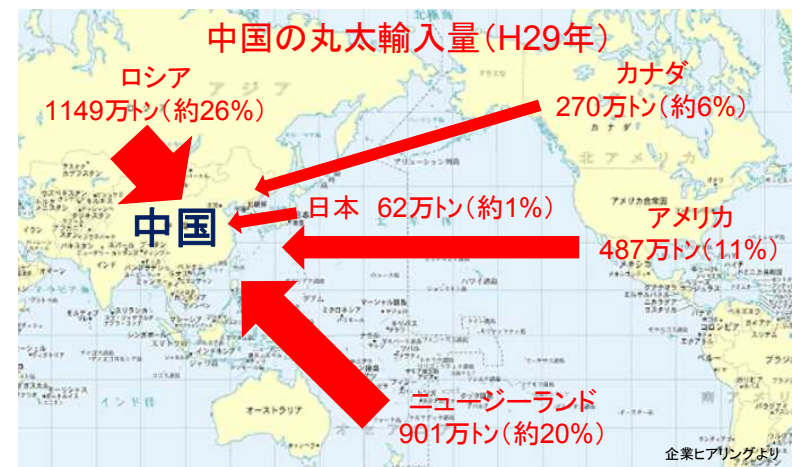
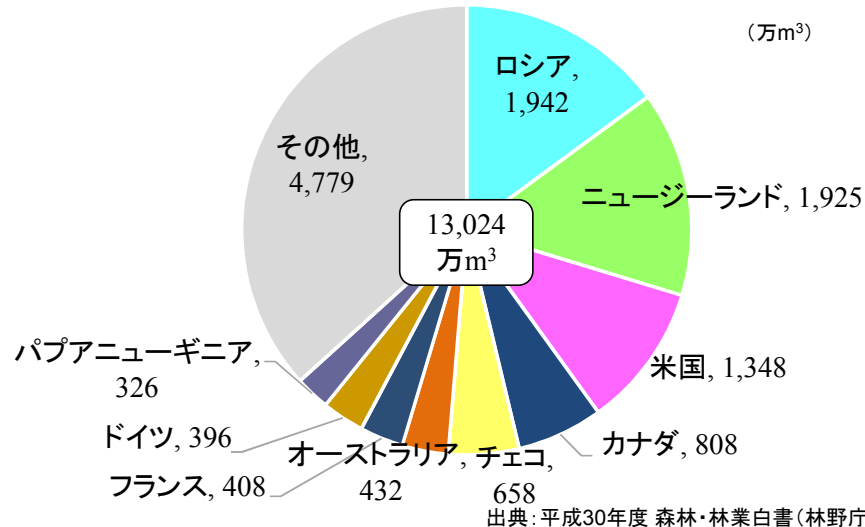
世界の産業用丸太輸入量(主要国別)



中国の木材需要動向(企業ヒアリング)

- ・中国国内の木材消費量は6億m³(2017年)。国内供給量は3.4億m³(同、木材自給率55%)。木材輸入量は丸太55百万m³(同)、製材輸入量は37百万m³(同)で過去最高を記録。
- ・中国政府は、丸太の輸入を促進するため、2008年に丸太の輸入関税を撤廃。  
(以上、JETRO資料(2019年3月)を基に作成)
- ・2018年の中国向けの丸太材の推定輸出量は約95万m³で、日本からの全輸出量の8割以上。更に、この中のスギのシェアは93%以上を占め、僅か5年間で3倍以上の物量に達している。
- ・中国市場におけるスギ材の用途は、梱包用材(パレット、木枠など)だけにとどまらず、同国内の市場や港での直接売買、大規模な一次加工工場の相次ぐ開設などによって様々な分野に広がっており、順調な消費要求に支えられている。今後は、より高品質かつ安定した輸出の継続が期待され、市場においては今後10年以上に亘って、安定的かつ増加傾向で推移するとみられている。
- ・ヒノキについても、徐々にではあるがニーズが高まっており、今後の認知度の向上がスギ同様に起これば、市場の拡大は期待できる状況。  
(以上、株式会社S.D.PLAN資料(2019年3月)を基に作成)

世界の産業用丸太輸出量(主要国別)



## 【参考】木材輸出に関する政府方針

「農林水産業の輸出力強化戦略」(平成28年5月 農林水産業・地域の活力創造本部)

### ■スギ

#### 【現状と課題】

輸出量が最も多い樹種であるが、その大部分は中国向けの低価格・低質な丸太輸出となっている。付加価値の高い製品中心の輸出に転換していくためには、実需者向けPRの強化による日本産木材の認知度の向上、相手国・地域ニーズを踏まえた輸出向け製品開発とブランド化、戸建住宅やマンション内装をターゲットとした販売促進等が必要である。

#### 【今後の取組】

- スギをはじめとする日本産木材の認知度の向上
- 日本産木材製品のブランド化の推進
- ターゲットを明確にした販売促進
- 製品加工の低コスト化による国際競争力の強化
- 丸太の供給体制の強化  
地域の森林組合等の共同出荷による大ロットの供給体制への転換、港湾等における輸出環境の向上を図る。

「木材・木材製品の輸出拡大に向けた取組方針」(平成29年6月 林野庁)

### ■中国

#### 【輸出に向けた取組方針】

＜短期的な取組＞

- 日本の加工技術を活かした木材製品の認知度向上とブランド化の推進
- 日本産木材製品の販売促進活動
- 日本産木材を利用した内装施工における技能者の育成

＜中・長期的な取組＞

- 木造軸組工法の普及
- 大学との連携による木造建築の人材育成
- 日本産木材を利用した住宅建設における技能者の育成

# 主な計画内容(緊急物資等輸送網の構築)

- 現在、川内港は薩摩川内市地域防災計画において、災害時の離島への緊急物資輸送の役割を担うこととなっている(川内港港湾計画において、耐震強化岸壁は未計画・未整備)。
- 今後、新たに耐震強化岸壁を計画し、災害時における背後地域(薩摩川内市、阿久根市、いちき串木野市)向けの緊急物資等の輸送拠点の役割も担っていく。



- 緊急物資の一時保管・仕分け
- 離島被災時の部隊の進出拠点
- 港湾利用者の一時的避難所



# 川内港の目指す姿と基本方針との適合

## 【目指す姿(前回改訂時)】

安全で使いやすく、人の集まる港作り

- ①安全で使いやすい港の整備
- ②我が国の南の拠点、南シナ海に向けた海の玄関口となる港の整備
- ③地域産業を支える港、地域発展を支える港の整備
- ④人が集まり、賑わいのある港の整備



## 【目指す姿(今回計画)】

県北西部地域の産業の競争力強化を支え、アジアとともに成長する川内港

- ①国際物流拠点として産業を振興する港づくり
- ②地域の安全・安心を確保する港づくり
- ③地域の交流・賑わいに資する港づくり

※港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針  
(令和元年6月国土交通省港湾局)

## 港湾の基本方針\*

### 特に戦略的に取り組む事項

我が国及び地域の基幹産業・地場産業を支える物流機能の強化と港湾空間の形成 < I・II章 >

- 我が国及び地域の基幹産業・地場産業を維持し、民間投資及び雇用を誘発するための港湾機能の強化並びに内陸部との連携強化
- 物流機能・産業空間の新たなニーズに柔軟に対応する港湾空間の利用再編・再開発の推進

経済的、自然的又は社会的な観点からみて密接な関係を有する港湾相互間の連携に関する基本的な事項

港湾相互間の連携に関する観点 < V章 >

バルク貨物の輸送においては、広域かつ効率的な海上輸送網の形成を通じた海上輸送コストの低減を図るため、企業間連携による大型船を活用したバルク貨物の共同輸送の促進等を図る。

### 特に戦略的に取り組む事項

災害から国民の生命・財産を守り、社会経済活動を維持する港湾・輸送体系の構築 < I・II章 >

- 災害時における緊急物資や、国際海上コンテナをはじめとする幹線貨物の一連の輸送ルート of 構築及び航路等の啓開体制の強化

## 今回計画での主な対応

### <物流・産業>

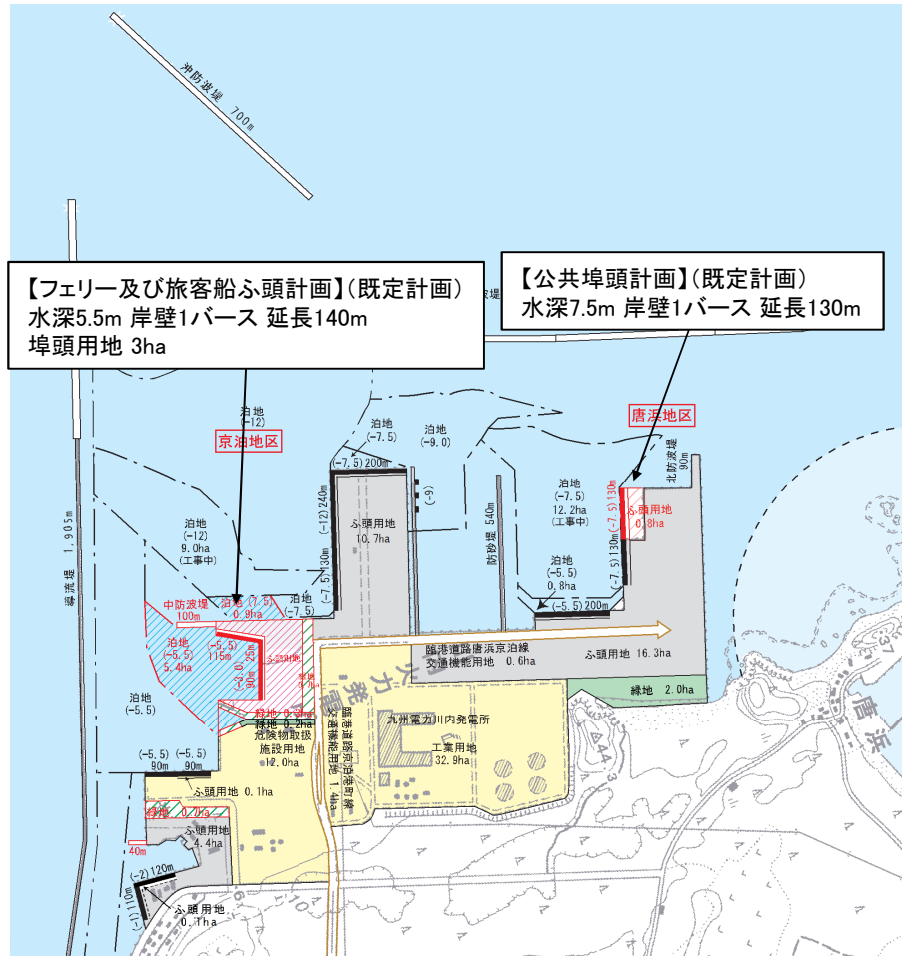
- ・新たな用地造成、コンテナ・原木を扱う多目的ターミナルの整備
- ・用地造成等とあわせた機能配置の再編、貨物保管機能の拡充
- ・物流機能強化とあわせた原木輸出に係る港湾間連携

### <安全・安心>

- ・緊急物資輸送、地域産業の事業継続に資する耐震強化岸壁の整備
- ・内港エリアにおける小型船の収容施設の整備

# 港湾計画の変更内容(唐浜地区、京泊地区)

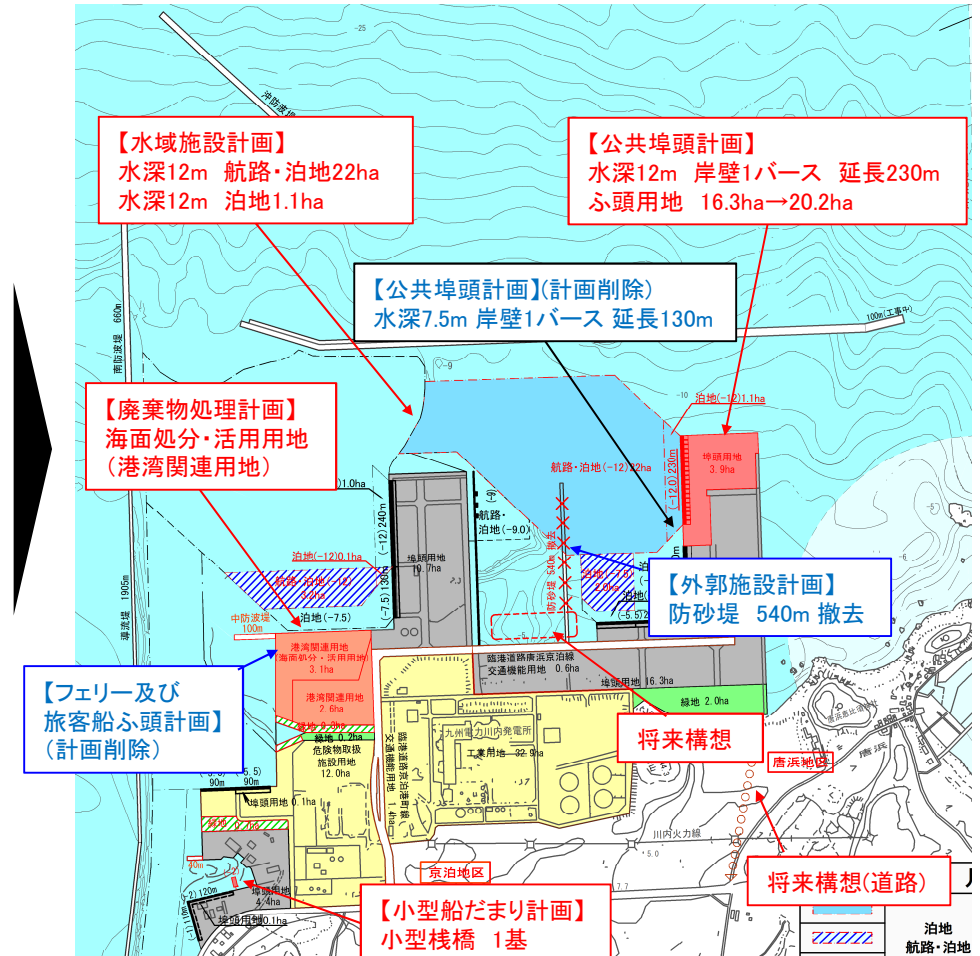
## 【既定計画】



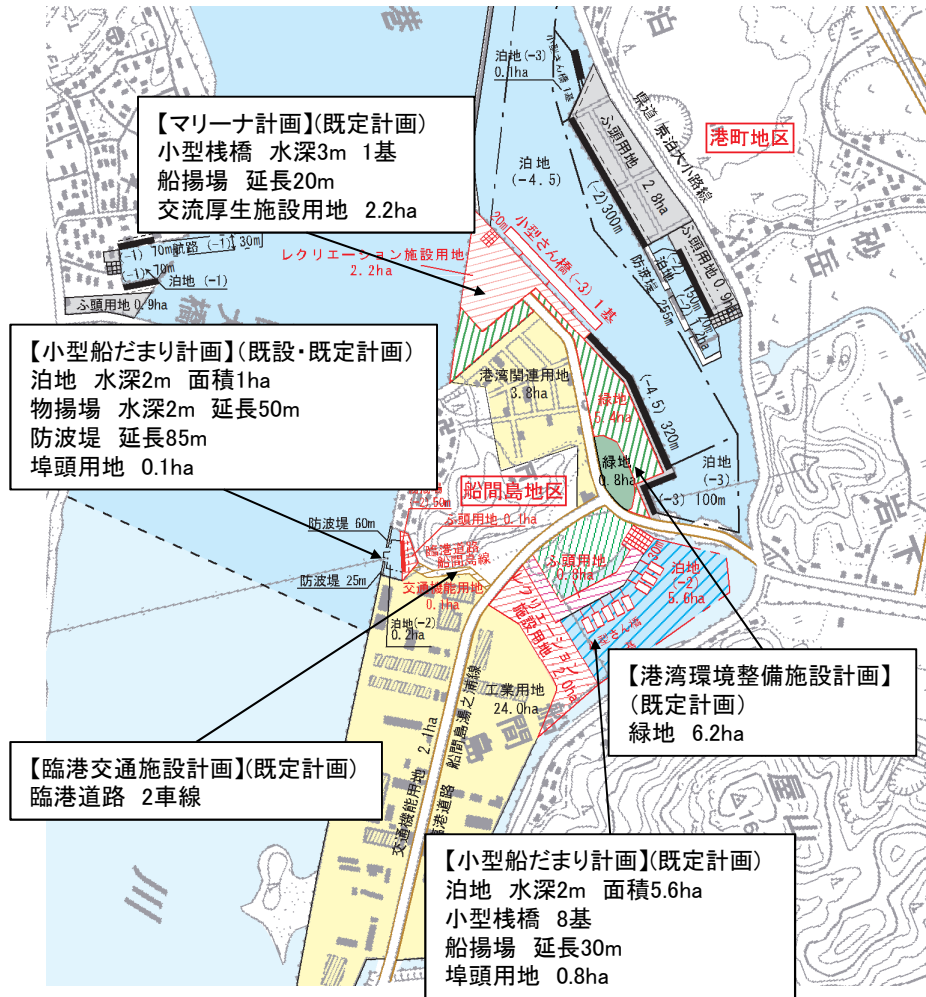
## 【今回計画】

凡例

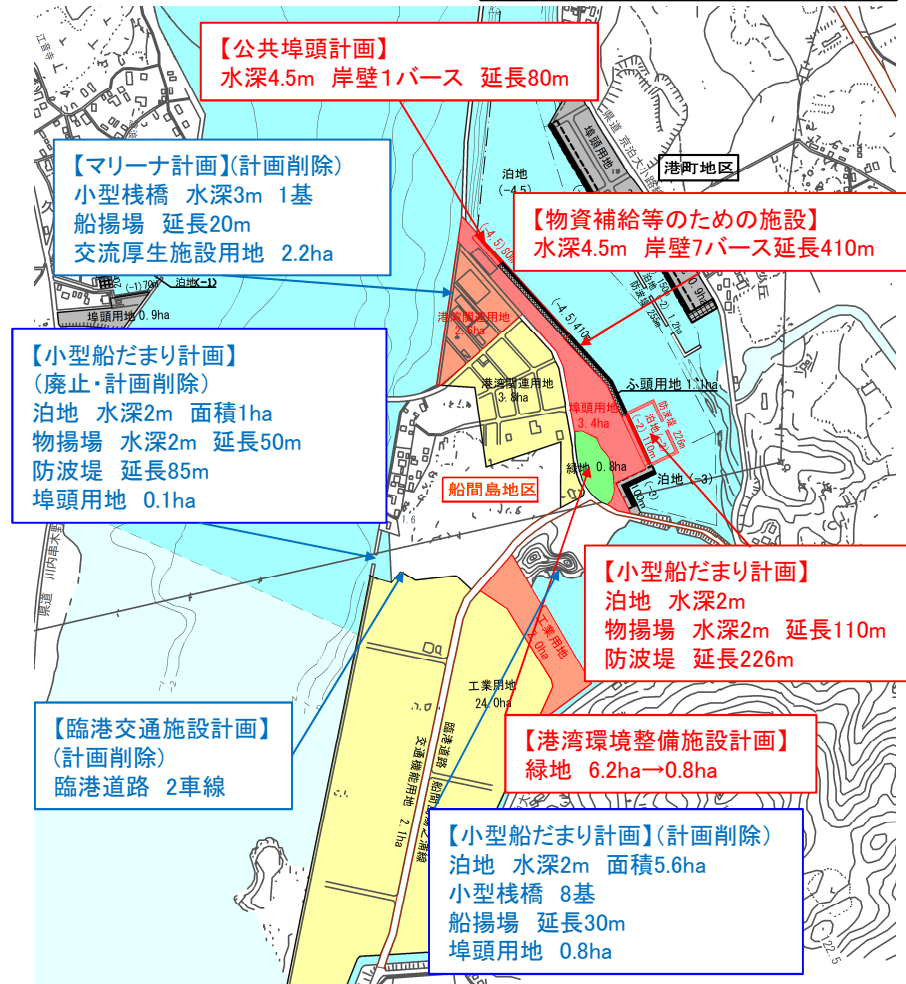
- 新規・変更
- 計画削除・撤去



## 【既定計画】



## 【今回計画】



## ○ 耐震強化岸壁の整備について

- ・ 県東部の志布志港、中央の鹿児島港には耐震強化岸壁があり、県西部の川内港にも耐震強化岸壁が必要と考えていた。今回、計画に位置付けられることは県の防災上、必要なことである。

## ○ 地元市町村における川内港の利用促進の取組について

- ・ 薩摩川内市は、川内港利用促進のため、ポートセールスや企業誘致、利用者等へのインセンティブ事業の実施、川内港を活用したイベントの開催など積極的な取組に努める。
- ・ 特に、中国の江蘇省常熟市と「港湾貿易促進に関する協力協定書(H28)」を締結し、川内港から常熟港へ直接、原木の輸出を行っており、現在も継続的に輸出が行われている。  
今後、原木だけでなく、加工した木材を輸出する方向で調整を行う。